未来（あした）へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、
安心してご利用いただけるサービスを提供し、
お客様満足の向上をめざします。

北国ならではの装備と対策を講じ、冬期間の鉄道の安全確保に努めています

年間の三分の一が雪に覆われる北海道では、鉄道もさまざまな装備と対策を施し、厳しい冬に立ち向かっています。

その一つが、「モータカー」と呼ばれる保線用の機械。赤と白の色合いが印象的なモータカーは、冬になるとラッセル用の翼やロータリーを取り付け、列車の通らない時間帯に線路を除雪します。ただし、細かい部分は人の手に頼らざるを得ません。たとえば、多数の機械からなるポイント部分は、作業員がこまめに除雪を行います。一方、ホームや屋根上の除排雪も機械では行えないため、駅では一日につき約千百人が作業に当たります。駅だけでなく、踏切の除雪、トンネル内部にできたつららや結氷の除去も人の手が頼りです。その都度処理しなければ、列車の脱線など、大きな事故につながりかねないため、全道各地で多くの作業員が除氷雪の作業に昼夜を問わず取り組んでいます。

除雪をする排雪モータカー。

どんなに機械化が進んでも、人でなければできない作業はほかにもまだ数多く残っています。北海道新幹線も例外ではありません。新幹線車両は、厳冬期にはマイナス十五度にもなる新函館北斗駅を出発し、新青森駅から東北新幹線区間を経て、プラスの気温になる東京駅まで走行します。このとき、車両下部の台車まわりに大量の雪をつけたまま走ると、気温の上昇に伴って雪が解け落ち、その雪塊が高速度で飛び散ると、沿線の建物や地上設備を損傷させるおそれがあります。そうした事態を防ぐため、北海道七飯町にある車両基地では、車両下部に付着している雪を、作業員が温水やスチームを使って解かし、列車を着雪のない状態に戻してから新函館北斗駅を出発させます。

駅での夜間のポイント除雪。

また、北海道新幹線が走行する線区の多くがトンネル区間ですが、トンネル以外の高架橋を走る際、線路上の雪を巻き上げることで車両に雪が付着してしまいます。この着雪量を限りなく少なくするため、モータカーに除雪用のブラシを取り付け、線路上に積もる雪を最大限除去するブラシ式除雪装置を新たに開発。これを用い、毎日未明に奥津軽いまべつ駅～新青森駅間の除雪を行い、着雪の低減を図っています。

JR北海道では、こうした取り組みを地道に続けることで、冬期における鉄道の安全確保に努めています。

文＝本間 吾里砂